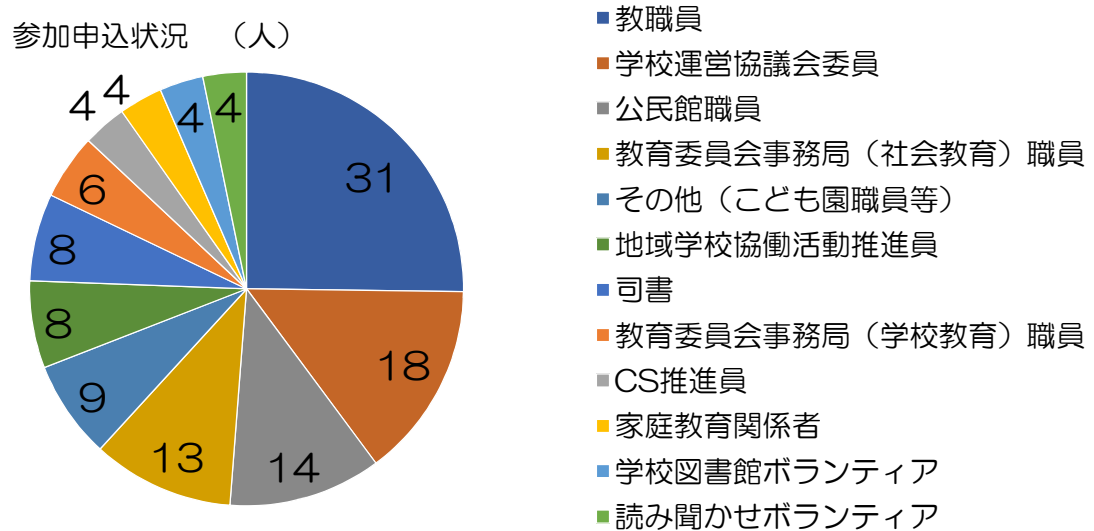


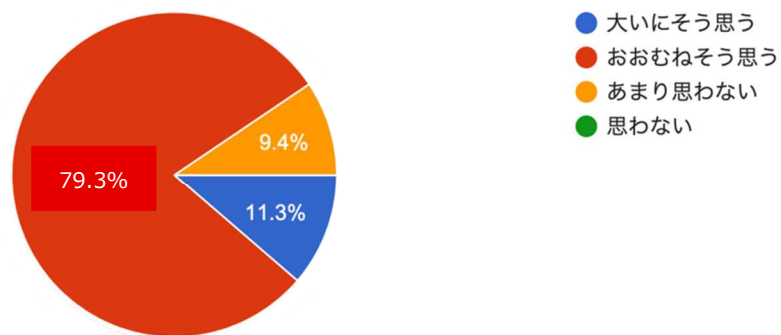
# 令和3年度きのくにコミュニティスクール推進ミニフォーラム

## 1. 参加者内訳（申込123名）

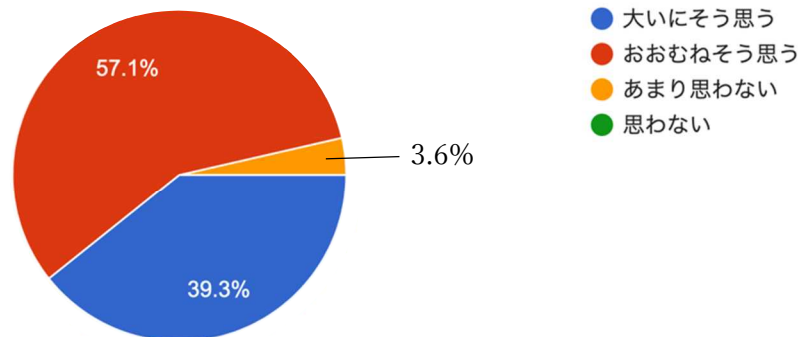


## 2. 本日のフォーラムに参加して、もっとも近いもの

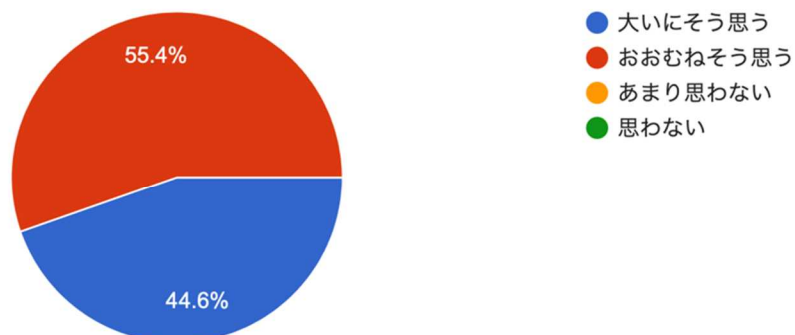
(1) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進についての展望が開けた。



(2) 読書活動を切り口としたコミュニティ・スクールに興味・関心が持てた。



(3) 今後、それぞれの立場において、コミュニティ・スクールに関わる取組を推進していこうと思う。



### 3. 皆様の御意見（抜粋）

(1) 本日のフォーラムの中で、最も良かったところを1つだけ教えてください。

- 子どもと絵本をつなぐまちづくりの話が聞くことができた
- 子どもと絵本をつなぐまちづくり
- 「子どもと絵本をつなぐまちづくり」の講演
- 音楽
- 藤田会長の講演内容

- 学校からのアプローチだけでは取組が進まず、共通の課題が必要だと考えます。  
また、保幼小中が連携した学校運営協議会が必要だと感じました。
- 講演の内容が非常に充実していたこと。
- ALEC センター長の杉本和子さんのお話が、実体験に基づいていて、とてもよく理解できました。
- 絵本のまちづくりを教えてもらえてよかったです。以前、おばけやしきへ行って、ALEC へ行って……。有田川町の取組みにずっと興味がありました。苦労してここまでの素敵な町になったんですね。それと雑談の大切さも再確認しました。
- メリーチューンさんのオープニングの読み聞かせ。
- ALEC センター長杉本さんの話、とても楽しかったです。これからも頑張ってもらいたいです。
- 藤田直子先生の基調講演。これまでの背景がよくわかり、コミスク活性化のヒントもいただきました。
- 有田川町の取組の中から、子供たちに本に興味を持たせるための具体的な活動が勉強になった。
- 絵本のまち、有田川町の取組、素敵でした。
- 去年のコミュニティ・スクールの研修で傍観者であってはならない職員・地域・保護者が共に働き、行動をしていかないと、今日、明日考え、学校に働きかけをしていかなければと思いました。
- 地域でいろんな取組をしていることがわかり、よかったです。オープニングのメリーチューンの演奏、朗読にとっても癒やされました。たくさんの子供たちに聴いて、感じてほしいと思いました。
- 有田川町の25年の取組、絵本のまちとなっている事を知ることができ、良かった。色々なところで、今自分のできる事をやってみる事からスタートする。
- 藤田直子先生の読書活動推進の具体的な実践が参考になりました。本校でも読書習慣の確立と読書活動の充実が学校評価からも課題であるので、次回の学校運営協議会で取り上げる予定になっており、本日の内容は大変タイムリーでした。
- たくさん事例を聞かせていただいて、自校の取組のヒントをいただけたこと。有田川町の取組はすばらしすぎて、そのうちいくつかでも真似できればと思いました。できればもっと人集め、お金、人材などの苦労話も聞かせてもらえれば、自分の地域に生かすことができるのではと思いました。
- 公共機関と学校と地域のつながり。

- 登壇された方、1人1人の熱い想いを受け取ることができました。願い願いはじめ、方法論は多々あると思いますので、しっかりビジョンと課題を明確にし、悩み、違いを共有しながら進めていくことができればと思います。
- パネルディスカッションの時間が少なかったですが、もう少し聞きたかったです。
- 杉本様のお話に感動し、大きなエネルギーをいただきました。もっとお話を聞かせていただきたいです。
- 有田川町の取組がとても参考になり、頑張ろうと思えました。
- 読み聞かせ、読書の大事なこと、1つのことをするにあたり、問題を解決して実行する苦労がよくわかりました。
- 杉本センター長のお取組の様子がよくわかり、参考になりました。発想や工夫、行動力など。
- 図書館づくりの工夫、知恵出しの大切さ。
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と学校の管理職の連携だけでなく、教職員・PTA さらに生徒会とも連携していくことで制度に魂が入れられることのお話に納得しました。
- 杉本さんの「本当に絵本のまち？」という問いかけにハッとさせられました。本当に“地域で協働する”ということに通じるなと思いました。
- ALEC センター長杉本さんのお話は、大変興味深く聞かせていただきました。
- 現在の環境の中での子供たち、地域の方との内容がよくわかりました。子供の為に、子供を育てる仲間として、顔の見える中で楽しく悩むという言葉が印象的でした。
- いろいろな活動が知れた。特に図書ボランティアの役割が大切。
- 読書活動を含めて、コミュニティ・スクールとしての活動の具体例を学べたことが、今後の指針として良かったです。
- 藤田さんのお話が良かった。
- コミュニティ・スクール部会の実働部隊の中にPTA部会を入れる。
- 読書というテーマにしぼったことから、内容の理解が易しかった。
- 有田川町の絵本を通じた取組に感心しました。
- 子どもと絵本をつなぐまちづくりでは、取組をわかりやすく聞くことができた。地域の人たちも楽しみながら、絵本を楽しんで読んだり、世界観に入れることができて良かったです。
- 読書は子供に大切。
- 基調講演の鳥取県南部町の事例が大変わかりやすく、参考になった。できたら資料がほしい。

- 3本ともとても良かった。内容も良く半日では難しかった。1日であれば、質問等の機会が持てた（コロナなので仕方ないが）。
- 他事例を聞いたこと。
- 具体的な取組を知ることができました。ありがとうございました。
- 基調講演で、子供を育てるためには、やはり地域との連携が重要となると改めて思いました。実働部会の中に、生徒会やPTAを含めるというお話は、とても参考になりました。
- 各地域のCSの取組を具体的に紹介してくれ、大変参考になりました。
- いろいろな地域で、コミュニティ・スクール推進のためにされていることを知ることができて良かったです。
- 子どもと絵本をつなぐまちづくりのお話はとても良かったです。杉本さんの熱意には尊敬します。
- すべてがとても貴重で納得できるお話で、これからの活動に役立てたいと思います。「1つだけ」と聞かれると、「オープニング」がとてもすばらしく、感動しました。とても癒された時間でした。
- 鳥取県南部町立南部中コミュニティ・スクールの話が一番良かったです。PTAに子供たちも入りの話も良かったです。
- 藤田先生、杉本センター長両方の情熱ある講話が良かった。

(2) コミュニティ・スクールを推進する上で、一番大事なポイントは何だと思いますか。

- まずは本気で思うこと。そして思いを共有していくこと。
- 先生・保護者・地域の人との連携・協力。
- 校長の意識。
- 地域住民と学校教職員のいい関係づくり。
- 地域学校共通の課題。
- 地域と学校とのコミュニケーション
- 地域と連携するための、リーダーの選出。負担を分担して楽しめる活動であること。
- 地域と学校が対等に課題へ向かって子供を育てていくこと。
- 地域と学校の協力、コミュニケーション。それがないと、子供達にとって何をしていけるか、見えてこないと思います。
- 世代の違う人たちが集いたくなるようなイベントが開催できればいいと思う。
- 学校運営協議会委員の意識をいかに高めていくか、また校長のマネジメント力も必要です。

- 子供の成長には学校教育だけではなく、地域の影響が大きいということ。
- 運営協議会委員、地域の人、学校、みんなの方向性・目指すものをそろえる。その中で自分にできることを考える。決して無理をしない。
- それぞれが理解して、役割を分担して、行動をしていくこと。
- 難しく考えずに、子供のためにそれぞれの立場で、できることをすることだと思います。
- 顔の見える関係で、学校・地域・保護者が1つになってする事。
- 学校の課題を共有し、その課題を改善するためのアプローチについて熟議をする事だと思います。
- それぞれ（地域・学校）が自分ごととして、地域の課題を共有すること。そして課題の実現に向けて推進していこうと動き出せること。
- 「できる時に、できることを、できるだけ」多くの人がこのスタンスで同じ方向性で関わること。
- 「楽しく悩む」いかに“悩み”（話題）を適切に共有することが大切かと思います。このキーワードの具現化ができるように、学校現場と頑張ってみたいと思います。
- 地域と学校のつながり（絆、信頼関係）。目指すものの共有（子どものために）。
- いかに地域の方々を巻き込み、同じ方向へ進んでいくエネルギーを出していくか。
- 学校側がもっと地域と関わろうとしないとダメですね。今日のお話は、どれもそのようにできれば素敵ですが、今回のフォーラムに、教職員、コミュニティ・スクールの方が誰一人参加されていないことがどうかと思います。一人も来ていない…。
- 学校・家庭（PTA）・地域の相互理解と連携。
- それぞれの組織が協力して進めていくことが大事だと思いました。
- 学校と地域が課題を共有すること。
- 学校と地域の交流を広げること。
- 「学校教育」と「まちづくり」を同時に進め、その鍵を握るのは子どもと高齢者であると思います。
- 地域の方の理解。
- 開かれた学校、対話が生まれる関係、地域住民の顔が見える関係として、地域と共に創ること、そして、読書文化を創ること等大切なことだと思います。
- 学校、保護者、地域の方が同じ方向に向くこと。
- 地域と連携できている取組は、以前からもありますが、その取組の意義と目的を、コミュニティ・スクールの視点から再度見直して、計画的に積み上げていくことが大切だと感じました。

- 学校の情報をもっと地域へ。
- 組織は TOP で変わる。組織は活用するためにある（有言実行）。学校と地域の信頼関係構築。
- 人と人のつながりを大切にすること。人と人とをつなげる為に、行動するには何が必要かを考える。
- 学校と協働の必要性を、地域の一人一人に対して、どう育てていくかだと思ふ。
- 地域の人たちの交流の仕方、取組がいろいろできるんだと思いました。
- コーディネーターの養成。
- 課題の共有と PDC。
- 学校管理職だけでなく、教職員が理解し、活動すること。
- 学校や子供を中心にして、より多くの人に関わること。
- 地域に開かれた学校づくりをしつつ、地域の方が学校に関わるイベント等を実施し、地域と学校がひとつに子供や生徒を育てる意識づくりが必要だと思ふ。学校で何をしているか、地域が求めている学校は何なのか等の情報共有が大切だと思ふ。
- 地域の方、保護者との「互いの顔が見える関係」「対話の生まれる関係」を築くことによって、学校教育を地域とともに創っていくことができると思ふ。
- 地域の方、学校、市町村が協力していくことが大切と思いました。
- 子どもに対して大人が、子どもを大事に思い行動を起こす。
- 無理に続けるのではなく、継続性を大切にして、様々な方々（立場・年齢など）に参加してもらえようように取組の工夫が必要ではないかと感じています。
- 部会を組織するが一番大事なポイントだと思ふ。メンバーが大事だと思ふ。いろんな人とかかわる。
- 学校にある部会を活用した CS 実働部会の認定。

#### 4. その他、お気づきの点があればお書きください。

- 講演を2つというのが多い。一つにしてパネルディスカッションにもっと時間をとるべき。参加者の意見を取り上げる時間もなかったのが残念。
- パネルディスカッションが楽しかった。
- 絵本のまち、有田川町の取組が素敵でした。まちづくりは人づくりです。
- 地域連携の結果よりも会議での話し合いの過程や内容を知りたいです。
- 地域の取組に生かせることを見つけました。今日の内容でヒントを得ました。ありがとうございました。

- 杉本先生の「目の前にあることを一つずつクリアしていっただけ」という言葉。小さな積み重ねが大事であると思った。パネリストの持ち時間を決めるべきである。（たくさん伝えようとするのは理解できるが。）
- 「どうやるか？」ではなく「どんな学校にしたい！」「どんな子どもたちになってほしい！」「どんな町にしたい」という願い想いが基盤であることを確信しました。その想いの具現化・実現に向けて、自分の職でCSにどう関わるかを楽しく悩むようにします。ありがとうございました。
- 評議員からコミュニティ・スクールに変わった時に何も変化を感じなかった。平気で会議を欠席する、さぼる人達を毎年面倒だからなのか、入替もせず、何も言われなことを良しとする学校。毎年人を変更する、男女比を考えるなど、していかないと何も変わらないですね。ほとんどの人がいない状態で、校長が少し話して終わる会議では、学校はよくなるらない。
- 質問できる時間を設けてほしいです。
- 少し内容が多すぎではと感じました。
- 子供の時からの読書ぐせが大切です。
- 本日のフォーラムでパワーをいただいて、明日からの実践に生かさせてもらいます。
- 橋本市立城山小学校運営協議会の実活動を調べてください。（モデル校→横展開）
- 仕事をする上でとても参考になりました。
- 南部町立南部中コミュニティ・スクールの取組について、各学校に配ってほしいです。